

ISO/TC61(プラスチック) 第67回年次国際会議開催

1. はじめに

第67回ISO/TC61国際会議が、2018年9月24日～28日の5日間にわたり、日本・さいたまのソニックシティで開催された。

会議には22カ国、約310名が参加し、昨年の20カ国、約150名に比べ参加国、参加者は増加した。

日本からは、自国での開催ということもあって宮入裕夫（東京医科歯科大学名誉教授）団長をはじめとして130名(昨年：79名)が参加した。これは日本から多数提案され国際会議への関心の高さの表れでもある。

2. TC61の構成・活動状況

ISO/TC61は、表1に示すように傘下に11のSCがある。TC61及び各SCの傘下にWGがあり、現在全部で57のWGが活動している。

このうち、新設されたSC14「環境側面」が今回より本格的に活動を開始した。

ISO/TC61幹事国は中国、議長国はドイツであり、参加P-メンバーは32カ国、O-メンバーは37カ国である。保有規格数は682、開発中の規格は121あり、大きなTCを形成している。この中で、日本は3つのSCの幹事国を引き受けており、TC61における日本の存在感は大きい。

1週間の会議期間において、TC61及び全てのSCの会議、及び全57WGのうち47のWGの会議が開催された。WGでは、新規提案や投票結果の審議が行われ、WGの上位にあるSCまたはTCにおいてWGでの審議結果が承認されることにより、規格開発の段階を着実に進めることができた。

3. 会議概要

TC61全体会議は初日の月曜日と最終の金曜日に開催され、初日は会議場の仕様と1週間の予定の説明が行われ、最終日には各SCの審議概要を各議長が報告した。

通常の会議の他に"リーダーズ会議"(TC61、各SCの議長、幹事及び各国代表が参加)が開催された。

4. トピックス

1) SC14"環境側面"の開催

これまでSC5の傘下にあったWG22(生分解性プラスチック)、WG23(バイオベースプラスチック)及びAHG1(マイクロプラスチック)と、"用語、分類、一般ガイド"及び"リサイクル"を加えたSC14"環境側面"が本格的に活動を開始した。

2) "プラスチック接合"会議

TC61の直下にWG4が設置された。タイトルは"Jointing"ではなく"Joining"とし、スコープはプラスチック及びその複合体の溶接(Weldung)、熱かしめ(heat staking)、機械締結(mechanical fastening)となった。なお、既にSC11/WG5によりカバーされている接着接合(adhesive bonding)は、WG4のスコープには含まないことが合意された。

表1 TC61の構成 (TC61: 幹事国 CN, 議長 DE)

SC	幹事国	議長	タイトル	活動中WG数
SC1	GB	GB	用語	2
SC2	KP	KP	機械的性質	7
SC4	GB	GB	燃焼挙動	5
SC5	DE	DE	物理・化学的性質	7
SC6	DE	DE	耐老化、薬品、環境性	3
SC9	KP	KP	熱可塑性プラスチック	14
SC10	CA	US	発泡プラスチック	5
SC11	JP	JP	製品	5
SC12	JP	JP	熱硬化性材料	3
SC13	JP	JP	複合材料及び強化繊維	3
SC14	DE	DE	環境側面	

US:アメリカ, CN:中国, GB:英国, DE:ドイツ, JP:日本, CA:カナダ, KP:韓国

3) バンケット

水曜日にはバンケットが開催され、160名が参加した。冒頭、JISCを代表して経済産業省国際標準課の藤代課長に挨拶いただき、その後、書及び切り絵のパフォーマンスが披露された。



4) 今後のTC61年次会議の開催予定

2019年以降の開催時期及び開催地は今のところ未定である。

(以上)